

自己点検・評価報告書

令和 7 年度 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシー)

1 評価体制について

鳴門教育大学・学校教育学部教務委員会は、「教育課程の編成及びその実施」、「内部質保証」に関する事項を取り扱うこととしており、本プログラムの推進について議論・評価を行う。

2 学内からの視点

2.1 プログラムの履修・修得状況、学修成果に関する事項

令和 7 年度において、本教育プログラムの新規履修者は全 1 年次生 110 名である。プログラム履修率（履修者数÷収容定員：400 名）であることから、履修率は 437 名 / 400 名 = 109% である。

履修登録者に対する単位取得者の割合は約 99%と、前年度(95%)より若干改善されているが、ほぼ同水準と考えられる。本学では、情報工学・情報教育・数理科学・教育評価をそれぞれ専門とする複数の教員で、座学の 15 回と演習の 15 回を担当している。特に、演習ではクラス分けを行い、少人数体制による学びの充実を図っている。学習管理システムの Moodle を利用し、関係教員が当該授業のコンテンツや学生の提出課題状況などの学修成果の状況を確認できるようにしている。

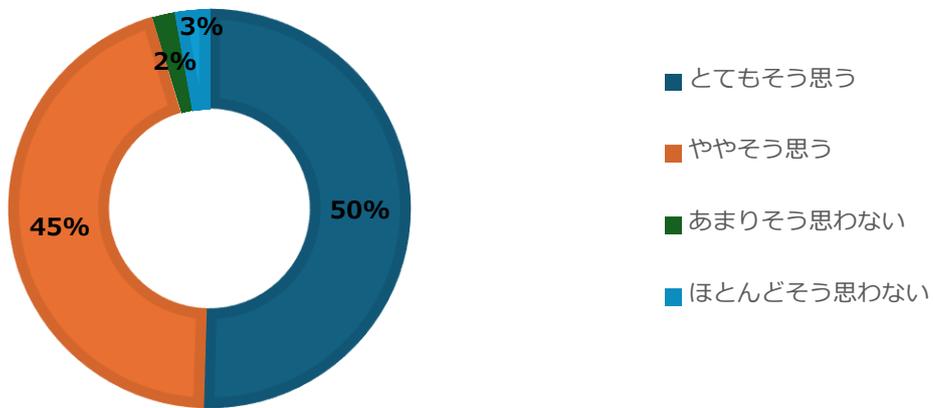
2.2 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度

基礎情報教育受講者を対象とした独自アンケートの結果から、講義への満足度、将来性について、いずれも高い評価を得たことが明らかとなった。当該科目を通じて、データサイエンス領域からはデータの扱い方、AI 領域からは AI についての理解に対する回答が、65%以上と高水準であった。学生アンケートの自由記述を分析したところ、質問をしやすい雰囲気であったこと、コンピュータを活用した実践的な内容であったこと、グループで協力しながら進められる活動が設定されていたことが良かった点として報告されていた。

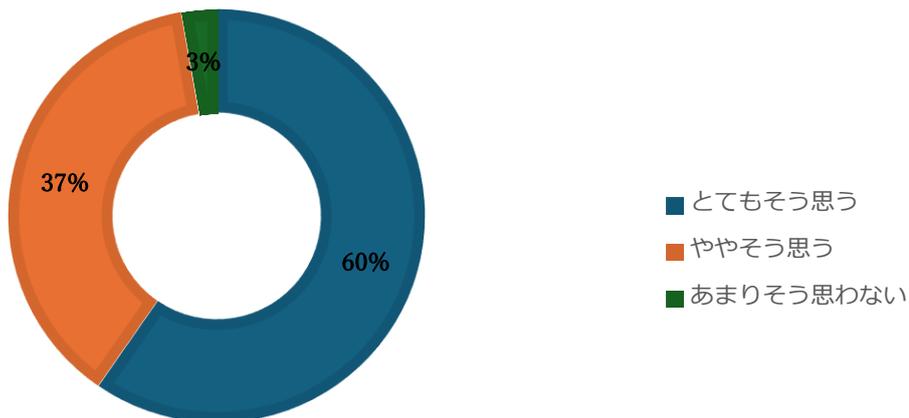
2.3 学生アンケート等を通じた、後輩等他の学生への推奨度・履修率向上に向けた計画

本プログラムを構成する授業科目「基礎情報教育」は 1 年次の必修科目であることから、「後輩等他の学生への推奨度」および「履修率向上に向けた計画」は自己点検・評価の対象外とした。

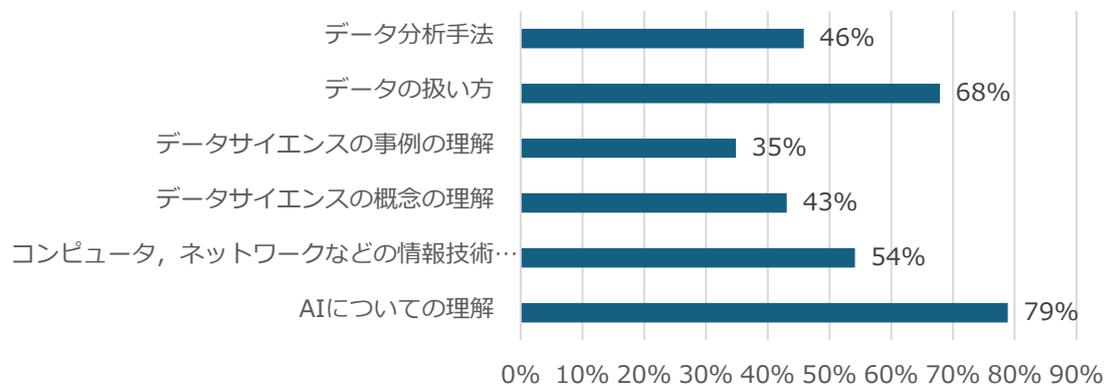
総合的に評価して、この授業は満足できるものであった。



本講義で得られたデータサイエンスの知識は、
あなたの将来に活かせるものであった。



あなた自身が身についたと思うことを選んでください



教育プログラム修了者の進路・活躍状況および企業等からの評価として、本教育プログラム修了生の多くは教員として就職しており、教員就職率は 89.4% であった。今後は、修了生の活躍状況を継続的に把握・検証できるよう、追跡調査の方法や実施体制の整備を検討する。

4 改善・進化に向けた取組

4.1 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

「基礎情報教育」では、担当者間で学生アンケート結果や学校現場の意見を共有し、学校教育の観点から数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義が理解できるよう、講義内容と実施方法の見直しを継続している。今年度は、教育におけるデータ利活用の具体事例を取り入れ、将来の教育実践との接続を明確化した。今後は、学習者の理解度差に配慮した学習支援の充実を図る。

4.2 内容・水準を維持・向上しつつ、「分かりやすい」授業とすること

学生アンケートを踏まえ、内容・水準を維持しつつ分かりやすい授業となるよう改善を継続している。今年度は、協働的な学習活動が理解促進に寄与している一方、課題説明の不明瞭さ、質問対応、受講環境差（Mac/Windows）に課題が見られた。課題提示の標準化と学習支援の導線整備、ならびに授業運用の改善を進めるとともに、「数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム四国ブロックシンポジウム」などに参加し、情報のアップデートを行い、効果的で「分かりやすい」授業を目指す。